

2002年10月 : 小泉総理・フォックス墨大統領会談にて、交渉開始に合意
交渉開始後1年程度での実質合意を目標

2002年11月 : 交渉開始
首席代表レベル会合7回開催(山崎国際貿易・経済担当大使ヘッド)
実務者レベル会合14回開催(外務、財務、農水及び経済産業省の共同議長)

(2003年10月 : フォックス墨大統領来日時には実質合意に至らず)

2004年3月 : 実質合意(大筋合意)

2004年9月 : 署名

2005年4月 : 協定発効

2005年4月発効。

1. 物品の貿易

- ・農林水産物・鉱工業品双方の包括的な関税撤廃・引き下げ

2. サービス

- ・相手国のサービス提供者に対する内国民待遇及び最恵国待遇

3. 投資

- ・投資の許可段階を含めた内国民待遇及び最恵国待遇、パフォーマンス要求の禁止等（ネガティブリスト方式）
- ・送金自由の確保、紛争処理規定の整備

4. 政府調達

- ・内国民待遇及び透明性の確保

5. 競争政策

- ・当局間の情報交換、規制執行活動上の協力・調整

6. ビジネス環境整備

- ・両国への勧告権を有する民間も参加可能な「ビジネス環境整備委員会」の設置

7. 二国間協力

- ・9分野（貿易投資促進、裾野産業育成、中小企業支援、科学技術、人材養成、知的財産、農業、観光、環境）における二国間協力の推進

8. 紛争処理

- ・協定の解釈・適用から生じる両国間の紛争を友好的かつ公正に解決するための仲裁裁判を含む規則・手続の策定

2005年4月発効。

農林水産品

鉱工業品

1. 豚肉

- ・ 従価税率半減の特恵輸入枠の設定
初年度 38,000トン → 5年目 80,000トン

2. オレンジジュース

- ・ 関税率半減の特恵輸入枠の設定
初年度 4,000トン → 5年目 6,500トン(濃縮換算)

3. 牛肉

- ・ 当初2年間 市場開拓枠 10トン(無税)
- ・ 3年目以降
3年目 3,000トン → 5年目 6,000トン
関税率は、協定発効後2年目に協議。

4. 鶏肉

- ・ 当初1年間 市場開拓枠 10トン(無税)
- ・ 2年目以降
2年目 2,500トン → 5年目 8,500トン
関税率は、協定発効後1年目に協議。

5. オレンジ生果

- ・ 当初2年間 市場開拓枠 10トン(無税)
 - ・ 3年目以降
3年目 2,000トン → 5年目 4,000トン
関税率は、協定発効後2年目に協議。
- ※ いずれの品目についても、協定発効後5年目に再協議。

1. 総論

鉱工業品分野においては、日墨双方の関心に応えた、国際的に遜色のない自由化(関税撤廃)に合意。

日墨双方とも、ほぼ全ての品目について、関税を10年以内に撤廃することに合意。

2. 鉄鋼分野の墨側自由化約束

例外なく、全ての鉄鋼製品について、10年以内に関税を撤廃。そのうち、特定業種※向けに使われるもの等については、関税を即時撤廃。

※電子、家庭用電気製品、資本財、自動車の4分野

3. 自動車分野の墨側自由化約束

協定発効時より、乗用車及び大型を除くバス・トラックについて、前年の墨国内販売台数の5%の新規の無税枠を設け、7年目から完全自由化。(注)

(注)墨内に生産拠点を有する企業向けの既存無税枠は、別途維持。

1. 貿易動向

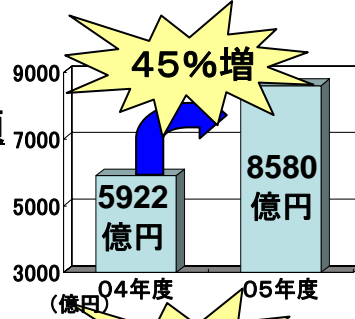
(2005年4月協定発効)

(1) 協定発効前後の貿易推移(財務省貿易統計)

(2004年度→2005年度)

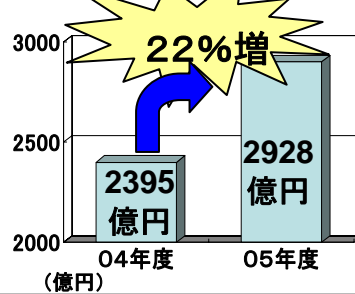
日本からメキシコへの輸出額

約5922億円→約8580億円
(前年同期比+45%)



メキシコから日本への輸入額

約2395億円→約2928億円
(前年同期比+22%)

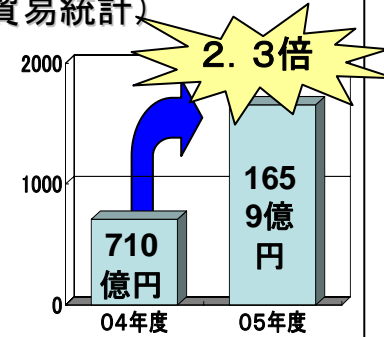


(2) 個別品目の貿易推移(財務省貿易統計)

(2004年度→2005年度)

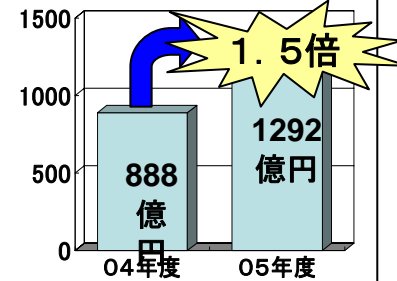
日本からメキシコへの音響・映像機器の部分品輸出額

約710億円→約1659億円
(前年度比+134%)



日本からメキシコへの自動車輸出額

約888億円→約1292億円
(前年同期比+46%)



2. 投資動向

自動車関連を中心に、対米輸出拡大も視野に入れた投資が目立っている。

- 日産自動車(現地生産拡大 20万台→35万台)
- トヨタ自動車(現地生産拡大 3万台→5万台)
- ブリヂストン(タイヤ・第3工場新設)
- ジャトコ(自動車変速機・工場新設)
- シャープ(液晶テレビ・第2工場新設)
- TOTO(衛生陶器・工場新設)

3. 貿易投資促進に向けた取組み

(1) ビジネス環境整備委員会

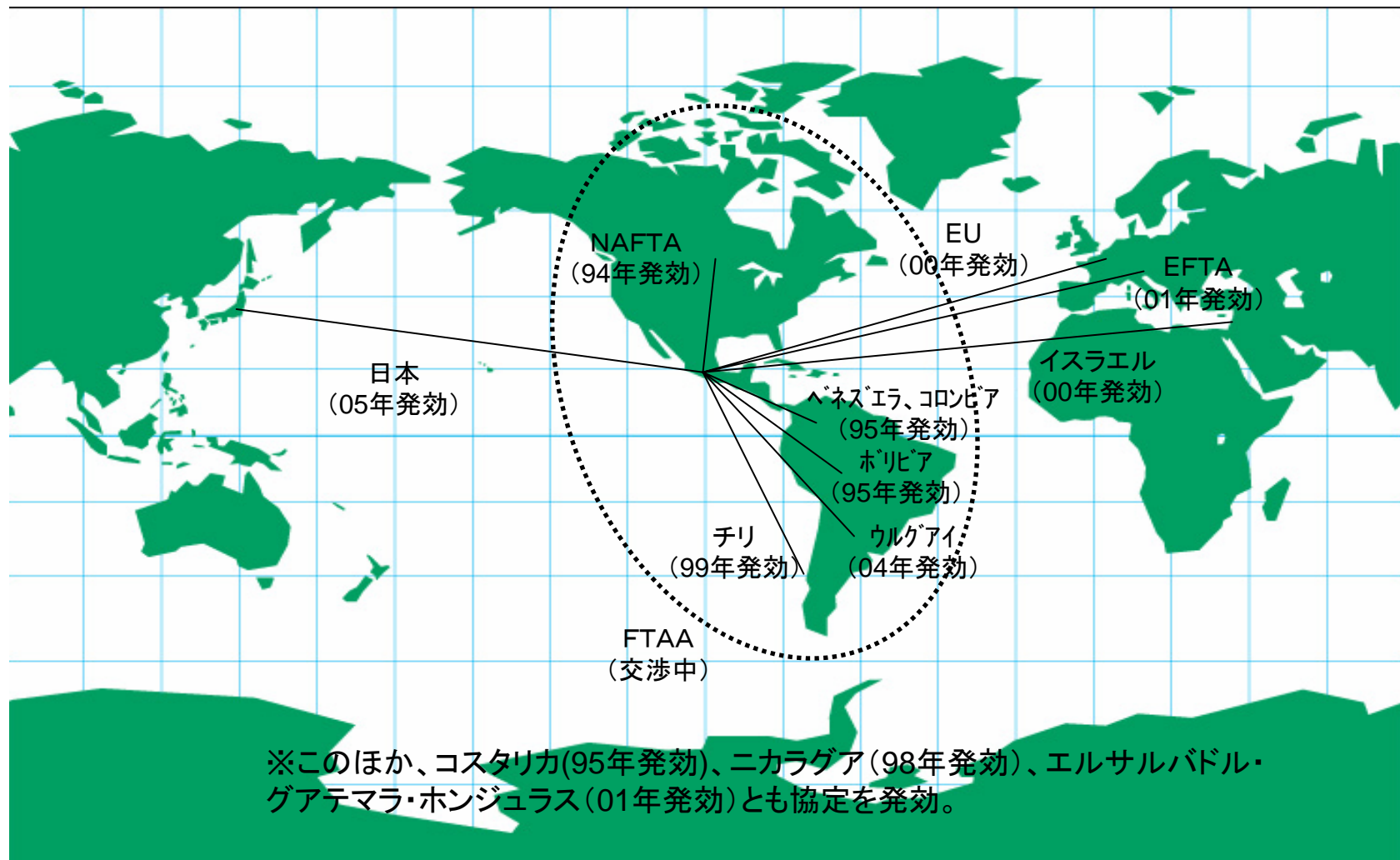
- ・「治安改善」、「知的財産の保護」、「インフラの整備」等ビジネス上の諸問題について両国の官民代表者で協議。
- ・05年4月: 第1回、06年5月: 第2回、07年5月: 第3回

(2) 貿易投資ミッション・セミナー

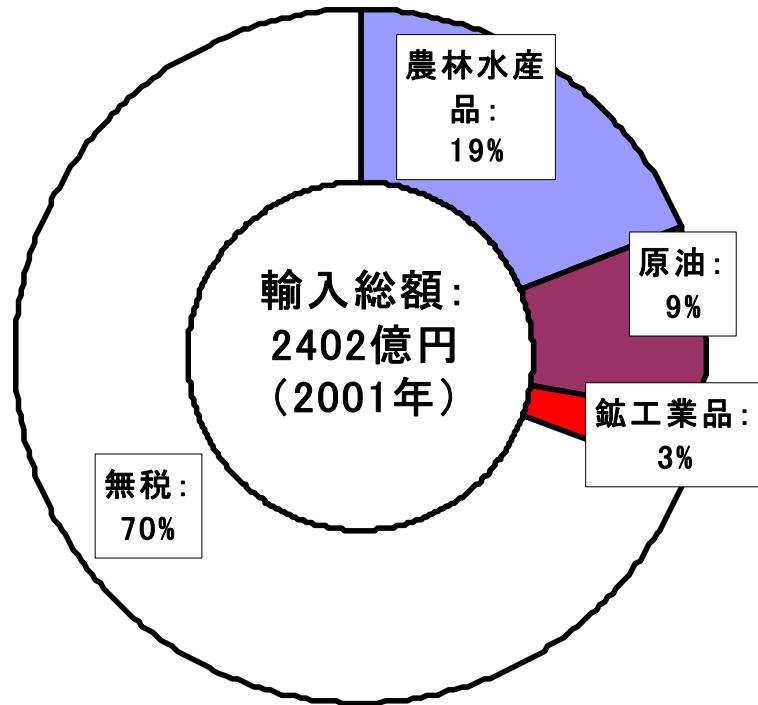
- ・メキシコへのビジネスミッション派遣(05年4月、JETRO)
- ・日墨経済連携協定セミナーの開催(毎年秋、経団連等)
- ・日墨EPAビジネスセミナーの開催(07年2月、JETRO)

(参考)メキシコの協定締結状況

- ・NAFTAをきっかけとして、FTA締結を加速。
- ・メキシコ国内では、FTAへのネガティブな雰囲気が高まる中、同国政府は、日本とのFTAとFTAAを同国の最後の取組とするとの方針を発表。(2003年11月 カナレス経済大臣)



メキシコからの輸入

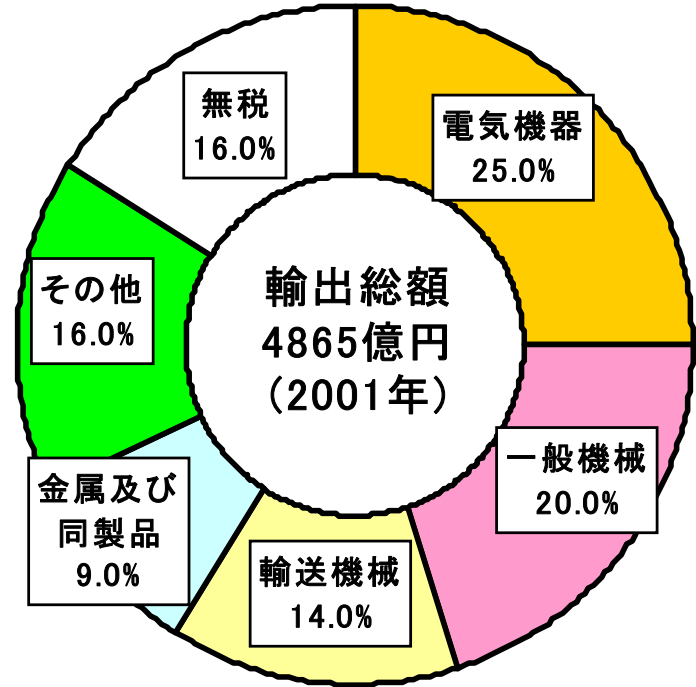


輸入品の70%が無税

○主な輸入品

自動車(11.1%)、コンピューター用ユニット(10.5%)、豚肉(10.3%)、原油(8.8%)、塩(6%)等

メキシコへの輸出



輸出品の16%が無税

○主要輸出品:

集積回路、テレビ部品、コンピューター部品、発電機、鉄鋼、鉄鋼製品、自動車、自動車部品等

財務省貿易統計(2001年)

(注) 輸出の品目別データは2000年のデータで計算